

中國刀劍武具——台灣篇

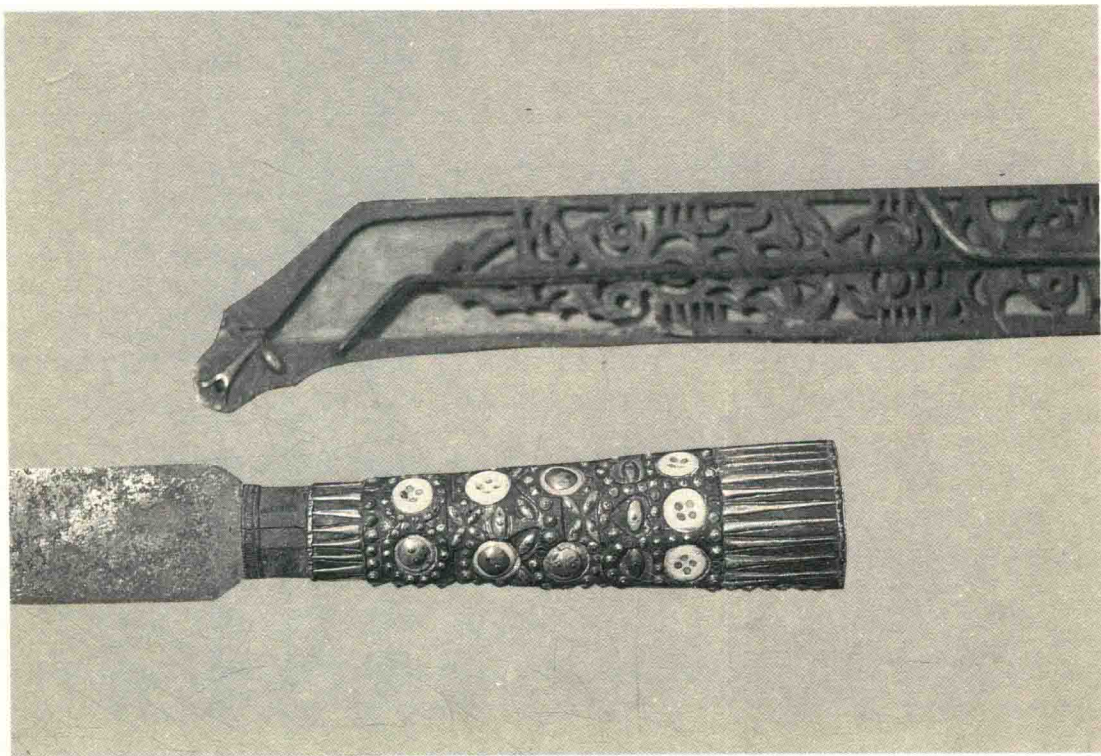
Chinese Sword Weapons — Taiwan Section

中華民國國立歷史博物館印行

目錄

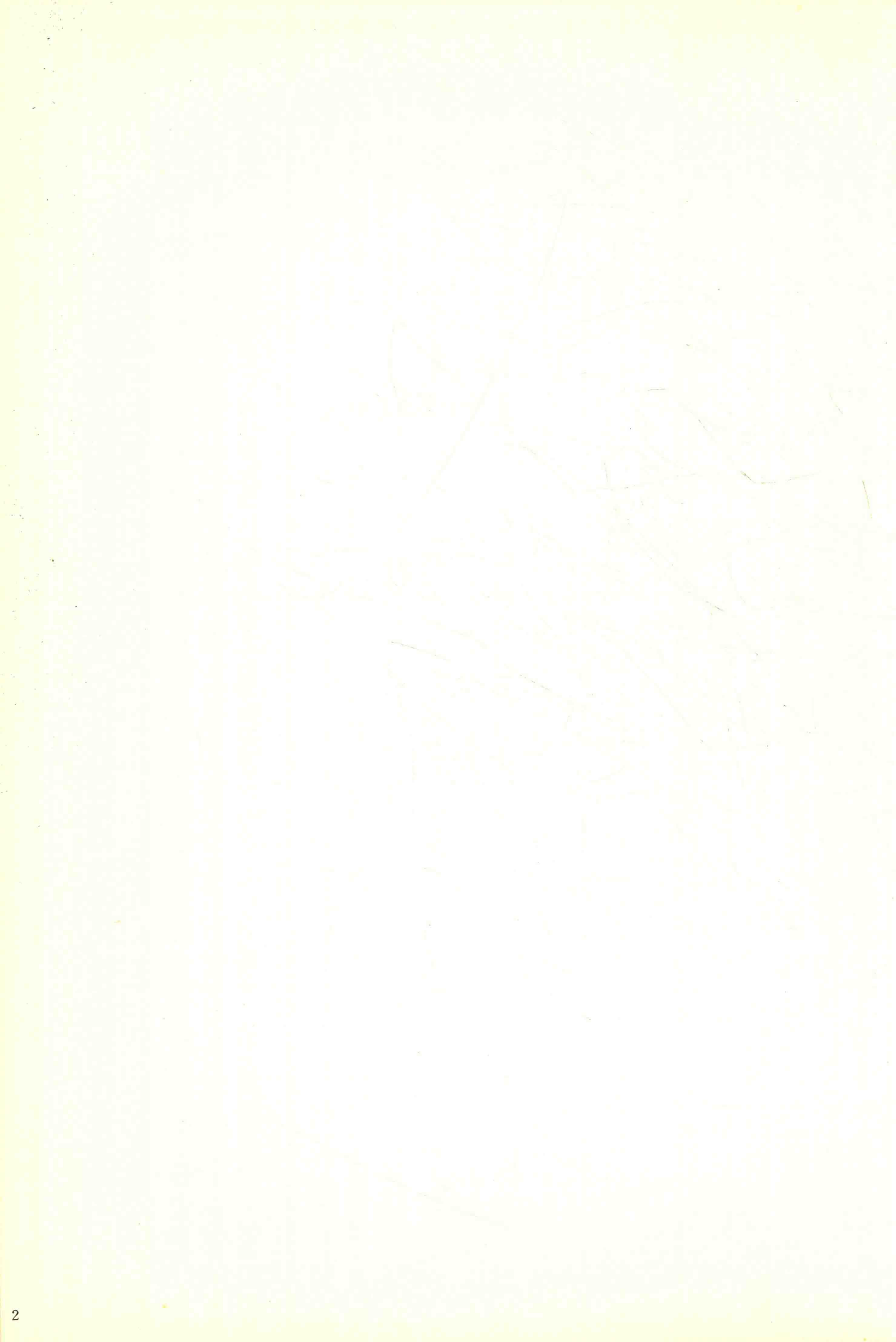
CONTENTS

I、序言	3
Preface	
II 中國刀劍武具史—台灣篇	11
History of Chinese Sword Weapons—Taiwan Section	
1.緒論	13
Introduction	
2.台灣史前文化的刀劍武具	17
台灣の史前文化となる刀劍武具	
Pre-historic Sword Weapons in Taiwan	
3.台灣土著民族之刀劍武具	22
台灣の原住民族の刀劍武具	
The Sword Weapons of the Taiwan Aborigines	
4.中原刀劍的傳入	34
中國大陸の中原地方からは入った刀劍	
Sword Weapons Sourced from the Mainland	
China	
5.西洋與日本刀劍	53
西洋と日本の刀劍	
Western and Japanese Swords	
III、傳世台灣刀劍武具實物	59
世に伝う台湾歴代刀劍武具の實物	
Plates of the Inherited Taiwanese	
Sword Weapons	
IV、實物圖片說明	103
實物の写真の説明	
Description on Plates	



風 林 美 術 館

林裕照 盧益村 編著



I .序言

Preface

序 言

台灣古稱「東鯤」或「夷洲」，自古以來即居住著屬於馬來系統的原始土著，與中國的淵源可溯自隋唐以前，關係至為密切；其文化水平雖不高，但工藝仍頗富地方特色，可視為目前世界上殘存原始土著藝術的一支。公元十六、十七世紀間，荷蘭人曾東航至此，據有目前台南一帶，首度引進了少量的西洋文化。其後，明、清兩代的中國大陸東南居民大量移民台灣，帶來了大量豐富的中國工藝美術與生活習俗，而成為台灣文化的基礎與主流。

十九世紀末，台灣成為日本的殖民地，五十年間，日本文化亦對台灣產生了某些程度的影響。上述數百年間東西方文化的接觸與交流，使台灣擁有中國、日本、西洋文化匯流狀況的特有條件。目前，除建築物為值得研究的重點外，工藝方面亦頗多存留物值得重視與欣賞，刀劍武具即為其中較為豐富的一部分。

本人素來對台灣歷代刀劍武具深具欣賞與收藏喜好，自慶應大學畢業後曾數度親訪台灣深入了解目前

古代刀劍存留狀況。前幾年赴美留學，發現美國刀劍藝術界也收集了不少原屬於台灣的古代刀劍藝術品。因此乃更積極地大量收集這方面的藝術品與資料，並且聯合台北的盧益村先生因地制宜有計劃地匯集各類傳世實物與珍貴文獻，系統地給予排比分類，進行深入研究，以便使台灣歷代刀劍武具的源流、特色、與個別重要代表傳世實物得大白於世。

目前，經過三年的辛苦工作，我們投以大量心血的作品——“中國刀劍武具—台灣篇”即將定稿付印出版，本人忝為出版贊助人，乃撰數言，以記述本書出版的原由與過程。

本書的出版，除或能填補台灣刀劍文化研究的空白外，亦希望能對中國、日本、西洋刀劍藝術的研究與了解有所助益。

林 裕 照
一九八七年元月

序 言

台湾の古名は「東鯤」或は「夷洲」と稱し、昔からマレーシア系統に属する原始居住民が住みついている、隋唐時代以前から中国と深い淵源を持ち文化レベルはそうでもないが、但し工芸は仍り地方特色に富み、現時点における世界に残る原始住民芸術の一支と見てよい。十六、十七世紀の間に、オランダ人が曾つて東航してここに至り、現在の台南一帯を据有した時に、始めて少量の西洋文化を導入した。その後、明と清の代に中国大陸の東南地域の居住民が大量に台湾へ移住され、大量で豊富な中国工芸美術と生活風俗を持込んで、而して台湾文化の基礎と主流を形成した。十九世紀の末、台湾は日本の植民地となり、五十年の間に日本文化も亦台湾に対してある程度の影響を与えている。前記数百年の間に東西の文化との接触と交流により、台湾をして中国、日本、西洋文化の合流状況をなす特有条件を有するようになった。現在、建築物が研究するに値する重点である外に、工芸品も亦頗るその物が多く残っており重視と鑑賞に値するもので、刀剣武具は即ちその中の割りと豊富な一部分である。

本人は平素から台湾歴代刀剣武具に深く鑑賞と集蔵の嗜好をもち、慶応大学卒業後幾度に亘つて台

湾を訪問し、深み入って古代刀剣の保留状況を了解して見た。数年前に渡米留学した頃に、米国の刀剣芸術界も亦少なからぬ元来台湾に属する古代刀剣芸術品を取集めている事実を発見した。そこで尚更積極的にこの事情に係る芸術品と資料を大量に取集め、併せて台北の盧益村先生と連合で当地の便利を計って計画的に各種類の伝世の実物と貴重な文献を取集めて、系統的に排列分類をなし、深み入って研究を進め、それにより台湾歴代刀剣武具の源流、特色と分別をなし、重要な伝世を代表する実物を世に告白するとてができた。

現在、三年の苦学せる作業を経て、我々は大量の心血作品——“中国の刀剣武具—台湾の篇”を投入し、落稿して印刷出版するに至る、本人は出版の助賛者としてここに一筆入れて、本書出版の原由と過程を述べて見た。

本書の出版が台湾刀剣文化研究の空白を埋める事にもなろうが、中国、日本、西洋刀剣芸術の研究と了解にプラスであるよう希望する。

林 裕 照
一九八七年元月

PREFACE

Ever since the ancient time Taiwan ancient name of "Tung K'un" or "Yi Chou", was inhabited by the Malay aborigines. Despite the low culture level, its relationship to China mainland could be traced to the times earlier than the Sui and T'ang periods. They have created artworks full of local color which becomes one branch of the remaining aboriginal art in the modern world.

During the 16-17th centuries the Hollanders once occupied the areas of now-a-days Tainan and brought in some Western culture. Later during the Ming & C'hing dynasties many inhabitants of the Mainland China moved into Taiwan and brought in large amount of Chinese art and custom which become the foundation and main-stream of the Taiwanese culture. Then, by end of the 19th century Taiwan became a colony of Japan, which again impacted on the Taiwanese culture to a certain extend. The influences from China, Japan and the West can be seen on both architecture and art. Among various kinds of artworks, the sword weapon has rich collection and is worth studying.

I myself have been appreciating and collecting the Taiwanese sword weapons for a long time. After graduation from Kei-O University in Tokyo, I have visited

Taiwan several times to personally understand status of the remaining ancient swords. And during my stay in the United States for advanced study a few years ago, I found the American sword art lovers have also collected a considerable number of Taiwan ancient swords. This enhanced my interest in aggressively and widely collect such artistical objects and related information. Meanwhile I have had the co-operation of Mr. Lu Yi-chuan in Taipei to collect both the real objects and related documentations and further systemize them, so that the origines and characteristics of the The Taiwanese sword weapons can be exposed to the public.

After three years of hard working, we are presenting to you the result of our endeavor-- "Chinese Sword Weapons—Taiwan Section". As the sponsor of the publication, I am pleased to write a few words indicating the whys and wherefores of publishing this book.

I sincerely hope that by this publication, we will be able to fill the blank for studying Taiwanese sword weapons; and furthermore, contribute to the study of Chinese, Japanese and Western sword art.

Lin Yu-chao

Ⅱ . 中國刀劍武具史—台灣篇
History of Chinese Sword Weapons
—Taiwan Section

壹 緒 論

與中國大陸上刀劍武具之發展過程頗為相似，台灣的刀劍武具最早可以追溯到史前時代。同樣的，也是從石刀而開始刀劍的歷史。由於台灣與華南一帶地區本係連結的大陸塊，因此早在史前一、二萬年左右文化便已有了初步的發展了。

台灣刀劍武具雖然在地域上只涵蓋了台灣與澎湖，惟由於其地理與政治環境的變遷，故無論在中國刀劍史或世界刀劍史上均佔有一席之地。就中國刀劍部份來說，由於宋元以降，重文輕武與防止反側等政策之施行，使民間甚少留存大量之刀劍武具；只有沿海漁民、海上盜匪等持有刀械。台灣自宋代以來漸成為東南海盜出沒之處所，明末清初又成為明鄭政府的最後堡壘，接著又被清朝統治二百多年，故得以留存相當數量之中國宋、元、明、清等朝代之刀劍武具。此外，明代中葉以後，荷蘭人入據台灣三十八年（1624～1662），其後才被鄭成功趕走，故也留有一些荷蘭統治時期之刀劍、砲銃等文物。中日甲午戰爭，中國戰敗，把台灣割讓給日本統治五十年（1895～1945）。在漫長的半個世紀間，日本以武力實施殖民統治不使台人有任何反抗的機會與希望。加上日本軍閥崇尚武力，雖然戰敗撤回本土，但也遺留了不少日本刀劍武具於台灣，其中不乏名品，令人頗為慨嘆。時至今日，日本刀劍仍部份為黑社會份子所使用，造成為台灣治安上的一大困擾，這實在是意想不到的後遺症與副作用。台灣刀劍武具之來源既是如此複雜，品類又各有特色，實在是一種奇觀。本書之目的，即在闡述台灣刀劍武具之流變，自史前時代遺物、土著用品以及歷代及荷、日等武具，均有詳實之介紹，並附以圖片解說。俾使讀者得以基本了解其面貌。為系統畫分，本書對台灣刀劍作如下分類：

第一部份：台灣史前文化的刀劍武具

第二部份：台灣土著民族的刀劍武具

第三部份：中原刀劍之傳入

第四部份：西洋與日本刀劍

古刀劍於今日歐美地區均與一般非法器械分開看

待，不視為管制物品，而視為古物珍奇。但在台灣，却未蔚為風尚，實在可惜。而反而成為了一種禁忌與避諱，實在是一件令人遺憾之事。

台灣刀劍武具之使用，正如同中國大陸之遺跡器物所顯示的用途一般，均是人類保障生活，應付自然的重要工具。積漸良久，其成份、形制與用途自然有所改變。在槍炮、飛機、飛彈等普遍使用為戰爭工具之前，刀劍就代表了武力之良窳與威力。其次，刀劍之造作又牽涉到了工藝水準與原料取得、形式設計等方面的問題，因為社會愈進步，才有可能造出更利、更精、更美的刀劍。時至今日，雖刀劍等武具不再成為主要的戰爭工具，但仍有存在與珍視的價值。與槍炮等武器相比，刀劍代表了一種光明、公平的爭鬭，也是一種社會價值的表現。刀劍之功用不僅是切割與拆信而已，更可以成為傳國之重器與宗教禮儀之祭器，由此看來，刀劍之功偉矣！刀劍也是延續文化的一種學問，並為一種高水準的藝術品，國人對中國的刀劍文化應有正確之認識才對。

一、緒 論

台湾の刀剣武具の歴史は、中国大陆における発達史と同じく、その昔は史前の頃までさかのぼる。同じように、この刀剣の歴史はやはり石がたなから始っているのである。台湾と大陸の華南地方の地殻は、地質学的に大陸のブロックと連なり、それで史前1～2万年あたりから、もう大分発達していた。

台湾の刀剣武具は、地域性においてただ台湾と澎湖とに総括されているが、それは地理的条件と政治的環境の転移によるもので、それ故にして中国の刀剣歴史、あるいは世界の刀剣史上においても、特別なポジションを占めている。中国の刀剣歴史から見れば、宋、元朝時代以降、尚文軽武と反逆防止の政治対策の実施により、民間に大量の刀剣武具などが保存されることを許されなかった、そのため、ただ沿海地域の漁民、または海賊達がそのような武器をまだ持っていた。台湾は、宋朝時代から段々と東南地方を荒す海賊のはびこる場所となり、明末清朝の初期には、明朝遺臣の鄭氏が清朝に立て向う本據地となり、その後は清朝に200年餘り統治された。そのため、台湾には大分沢山な中国宋、元、明、清朝の刀剣武具が保存されて来た。この外、明朝中世時代に曾ってオランダ人が38年間(1624～1662)も住み込んでいたが、明の鄭成功氏に追われた。それで又もオランダ人駐屯時期の刀剣や砲銃などの文化遺物が残っている。中国と日本との日清戦争に中国が敗けて、台湾が敗戦の賠償金として日本の手に渡り、日本に統治されること50年(1895～1945)。こんなに長い半世紀もなる期間中、日本は武力で植民地統治を実施し、台湾住民にいかな反抗行動から望みのチャンスも與えなかった。しかし日本軍閥の軍人達の尚武精神から、終戦後日本本土に復帰するとともに、またもや沢山な日本の刀剣武具が台湾に残された、そのなかにも、古刀名剣が少なくなく、思えば本当に慨嘆にたえない。しかるに今日に至り、それら日本の刀剣が暗黒社会のヤクザ者達の手に渡り、台湾治安上における大きなとうづんとなり、実に思いがけない成り行きとなつてしまった。上記のように、台湾の刀剣武具の出所はかように複雑を極め、品目種類と色とりどりの特殊性を帯び、実に壮観である。著者の目的は、これら台湾の刀剣武具の流れを著述するにあたり、史前の遺物から原住民に使は

れた古物用品、明、清、オランダ、日本の器具、に図を添えて解説を加えて、詳しく紹介致します。そして読者の皆様が、これで全盤的に分かりになれば、幸に存じます。さて、系統的に分かりやすくするため、台湾の刀剣類を次のように分けました。

第一部：台湾の史前文化となる刀剣武具。

第二部：台湾の原住民族の刀剣武具。

第三部：中国大陆の中原地方からは入った刀剣。

第四部：オランダと日本の刀剣。

古刀名剣は今日の欧米において、通常の不法所持武器とは分けて、管制を必要とする要品と見なされず、珍奇古品と見なされている。しかし、台湾においてはそう云うフアツションとは見られず、口惜しいことと思います。それどころか、かえって忌避し禁制品となっており、本当に遺憾な事です。

台湾の刀剣武具の用途は、中国大陆の古代遺跡に見られる器物の用途と同じく、みな人間の生命守り、生きていくのに必要で、自然の脅威に対処する重要な工具です。経験の累積と世の移り変りで、それらの成分素材や形と用途は、段に変わって行った。銃大砲、飛行機、ミサイルなどが戦争の工具として使われる以前、これら刀剣は、武力の良し悪しと威力を代表するものであった。次第に刀剣の作りは、手藝のレベルアップと素材の開発から、形やデザインの方面に進み、人間社会の進歩につれてもつと鋭どく良く切れる、精巧で美術的な刀剣が作られるものであることが当然だと知られていた。今となつてこそ刀剣などは戦争に使はれる重要な工具とは認められないか、それだ未だ保存し、珍奇なものとして見られる価値あるものです。現代の鉄砲や大砲などの大砲などの武器と比べれば、この刀剣は過去における武器と比べれば、この刀剣は過去における正々堂々と公平な決闘を代表し、それが又ある一つの社会価値表現でもあります。刀剣の使いみちはただ切ったり、封筒を開けるためだけではなく、祖先伝来の重器や、宗教儀式の祭器にもなります。それから見れば、刀剣には未だまだ功ありと云いたいところです。又、刀剣は格品があり、レベルの高い藝術品でもあり、我々は、刀剣文化より台湾に対して、よりもっと正しい再認識があるべきだと思ひます。

I. Foreword

Similar to the development of the sword weapons in the Mainland China, the earliest sword weapons in Taiwan can be traced to pre-historic time. Also similarly, the history of Taiwanese sword weapons begins with stone knife. Since Taiwan & Mainland China used to be a connected continent, its development started as early as ten to twenty thousand (10,000-20,000) years before recorded history.

Geographically, the Taiwanese sword covers only that of the Formosa Island and Penghu Island, yet owing to Taiwan's geographical location and political changing, it has a significant position in the sword weapon history of both China and the whole world.

As far as Chinese weapons are concerned, ever since the Sung Dynasty, the government enforced policies that put mental pursuits above martial art, and strictly prevent treachery. These policies resulted in few sword weapons left among the people, except for fishermen and pirates. Meanwhile, since the Sung Dynasty, Taiwan has become the haunt of pirates in the Southeast coasts; in the Ming Dynasty, Taiwan became the last castle of Cheng Chen-kung; followed by the ruling of the Manchus for two hundred years in the Ching Dynasty. All of these enabled Taiwanese people to retain a considerable quantity of sword weapons of the Sung, Yuan, Ming & Ching Dynasties.

Furthermore, in the later part of Ming Dynasty, the Hollander had occupied Taiwan for thirty-eight years (1624-1662), which enriched the collection of Taiwanese sword weapons by adding some special knives, swords & cannon. During 1895-1945, Taiwan was once again occupied by a foreign country, this time Japan, which contributed to the collection by many Japanese style sword, including some very adorable ones.

The origin of Taiwan sword weapons has been so complicated and diversified, this book thus seeks to depict the development of these weapons by detailed introductions and illustrations. This book will cover the period from pre-historic time all the way through each dynasty as well as the foreign influence of Holland and Japan. In this book, we will divide the Taiwanese sword weapons into the following categories:

Part I : Pre-historic sword weapons in Taiwan

Part II : Sword weapons used by Taiwan aborigines

Part III: Sword weapons sourced from Mainland China

Part IV: Holland & Japanese style sword weapons.

In now-a-day Japan, Europe and U.S.A., ancient weapons are treated as antiques, distinkted themselves from general killing tools. However, it is regretful that in Taiwan they are treated the same as general killing tools and strictly controlled.

Again, similar to that of the Mainland China, in the early stage, the Taiwanese sword weapons were used to protect human lives and overcome dangers from the wild nature. Later, before

modern weapons were developed, sword weapons became tools for fighting against enemies and a symbol of power. Today, these sword weapons are still worth keeping because they have become adorable antiques of art.